

平成28年度 第2回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】 平成29年2月3日(金) 午後6時30分から8時30分まで

【場所】 学園都市センター11階 学生交流室・国際交流室

【出席者】 ◎評議員

森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、串田評議員、シュレスタ評議員、谷川評議員、児野評議員、ドミー評議員

◎事務局

市民活動推進部 立花部長(途中退席)、多文化共生推進課 浅岡課長
同課 櫻井主査、阿部主任、柳沢主任

【欠席者】 舘山評議員、マダワラ評議員

【公開・非公開の別】 公開

【傍聴人】 なし

【配付資料】 評議会次第

資料1 「海外友好交流都市」候補グリーンツェン市への訪問について(報告)

資料2 施策の体系図

資料3 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた外国人対応

資料4 多文化共生意識の啓発に関する実績

資料5 八王子市外国人市民アンケート調査結果(中間報告)

資料6 平成29年度多文化共生推進評議会予定

資料7 八王子市における主な外国人留学生支援事業

1 開会

＜配付資料確認＞

2 部長挨拶

3 報告事項

○グリーンツェン市の視察について

＜事務局より資料1を用いて報告＞

○外国人アンケートについて(中間報告)

＜事務局より資料5を用いて説明＞

＜外国人向けアンケートのほか、日本人向けのアンケートを実施していることも併せて報告＞

【質疑】

評議員

・1,000人に送付して、182人しか回収が無いということは、何か問題があるのではないかと。内容がよくわからないということがあるのか。

事務局

・一般的にこういったアンケートを行った場合の回収率は2割程度の回収率なので、それほど悪くはないとおもっている。ただ、中間報告なのでこれからどの程度回収率が伸びるか。1,000人に対して182人の回収率は良いとは言えないので、もう少し多く回収したい。

評議員

・内容がよくわからないということがあるのかもしれない。

事務局

・電話での問合せでは、内容が分からないというものは無かった。
・調査票は、日本語のほかに、英語、中国語、韓国語、スペイン語の4か国語で作成し、それぞれの国籍に合わせて送ったが、対象者から「他の言語で送ってほしい」といった問い合わせがあった。

評議員

・私のいた業界では、例年の政府関係のアンケートでも回収率が3割に届かないことが多かったので、2割を超えれば御の字だと思う。

評議員

・アンケートの対象者はどのように決めたのか？

事務局

・国籍については、それぞれの国籍の人数比に合わせて、偏りが出ないように人数を決め、また、住んでいる地域に偏りがないように抽出した。

評議員

・もう少し強く回答を求めても良かったと思う。自分の子どもにもアンケートが来ていた。日本で生まれ育って、母国のこともよく知らないし、ずっと日本に住んでいて、これからも日本で生きていくつもりなので、回答する意味を感じられなかったようだ。「回答する必要はないのではないか」と言われた。「大切なサンプルになるので必ず回答してください」ということが書いてあれば良かったのではないかと。

評議員

・アンケートは郵便で送ったのか。

事務局

・そのとおり。

評議員

- ・返信用封筒も入っているか。

事務局

- ・入れている。

評議員

- ・返信用封筒が入っているということは、回答を強く要求しているということではある。

事務局

- ・市政モニターは、回答をすると謝礼がもらえるということもあり、回答率が高い。もともとのアンケートへの意識が高い人たちであるうえに、500円程度だが謝礼が出るという違いがある。回収率を上げるためにはそういったやり方も必要かもしれない。

評議員

- ・図書券などがもらえるのもある。

評議員

- ・自分が調査をした時も、ボールペンのような記念品を配って、回答してくれる人が多かった。

評議員

- ・結果はどのように公表するのか。ホームページに公開する予定などはあるのか。

事務局

- ・ホームページでも公開し、次回の評議会の資料としても配布する。

評議員

- ・前回のアンケートと同様の設問については、項目の増減などの比較もしてほしい。

評議員

- ・アンケートの対象者は、永住者かどうかに関わらず実施したのか？

事務局

- ・永住者であるかどうかということは、事務局では把握が出来ないため、全ての外国籍の市民を対象としている。
- ・資料5の2ページに在留資格についての回答状況が記載してある。今回のアンケートでは、回答者の5割が永住者で、前回は23%となっている。

評議員

- ・永住者ということは、日本で生まれ育っている人もかなりいるのではないかと。前回とはアンケートの回答内容もかなり異なってくるのではないかと。

事務局

- ・問6は職業についての設問になっている。会社員が3割になっている。前回実施したアンケートでは14%だったので、会社員の比率が多くなっている。

ひょうぎいん
評議員

- ・住民票上で外国籍の人が対象ということでよいか。

じむきょく
事務局

- ・そのとおり。

ひょうぎいん
評議員

- ・よろしければ、次の報告事項「八王子市多文化共生推進プラン」の改訂スケジュールに移りたい。

○「八王子市多文化共生推進プラン」改訂スケジュール

＜事務局より資料6を用いて説明＞

しつぎ
【質疑】

なし

4 意見交換

ひょうぎいん
評議員

- ・「八王子市多文化共生推進プラン」の改訂に向け、採り入れるべき視点・重視すべき視点などについて、皆さんからの意見をいただきたい。
- ・プランを作成してから4年近く経っているため、その後の社会情勢やオリンピック・パラリンピックを含めて新しい動向があるので、そういったことを踏まえて、プランを改訂していこうというところだ。
- ・事務局から説明をお願いしたい。
＜事務局より資料2、資料3、資料7を用いて説明＞

ひょうぎいん
評議員

- ・今の説明に対する意見等はあるか。資料2については一番右側の部分を見直そうということである。それに関して、各評議員に意見が募ったところ、館山評議員よりオリンピック・パラリンピックにより想定されるインバウンド対応に関連した多文化理解教育の推進や市民向け多文化共生啓発活動などをプランの改訂に向けて検討してはどうかという提案があった。プランの見直しの際に、新たな項目を付け加えるということが考えられる。当初プランを作成した当時は、オリンピック・パラリンピックは想定していなかったもので、そのことはほとんど採り入れていない。資料2の推進する施策4に「外国人観光客等への情報提供の充実」という項目はあるが、直接オリンピック・パラリンピックについては、この時は考えていなかった。
- ・もちろん、オリンピック・パラリンピックだけではなく、充実させた方がいい、改訂した方がいい、という点があれば意見をいただいてプランに反映していきたいと考えている。
- ・谷川評議員からも意見をいただいているので、まずは谷川評議員から話をうかがいたい。

評議員

- ・オリンピック・パラリンピックに向かって厚生労働省が動き始めている。医療通訳が足りない。NPOや企業などがそれぞれのシステムを使い、言語能力の向上や通訳のトレーニングなどを行っている。私もFacebookの医療通訳のグループに入っている。
- ・去年の11月下旬から12月上旬まで、ウェブでZoomというアプリを使って、民間のNPOの方で医師兼医療通訳者が主催している医療通訳のセミナーに参加した。この方は、奥様も群馬大学の医学部の教師らしいので、二人でセミナーを作っている。無料で50人しか受けられない。50人定員のところ80人が集まり、かなり大きなセミナーだった。時間は土曜日の夜9時から10時半までで多くの人に参加できるようになっている。米国やカナダなどからアプリをとおして講座をおこなっている。

参考 URL http://www.multiculture.jp/htdocs/index.php?action=pages_view_main (特定)

非営利活動法人地域診療情報連携協議会)

- ・参加者に医師・看護師は少なかった。ほとんどの参加者は通訳者だった。言語も様々なものに対応している。他のセミナーにも参加したことがあるが、このセミナーは良かった。このセミナーは2日前に事前に電子版のテキストが送られてきて、事前テストがあり、どの程度医療のことが分かっているか確認させられる。また、セミナー終了後にもどのくらい分かったかテストがある。2回は基礎医学の研修で、3回目は、ロールプレイを行った。参加者をランダムに指定して、英語で脳梗塞になったということを通訳してもらい、それが合っているかどうかチェックするといった内容だった。とても良いやりかただった。
- ・八王子は、医療通訳ボランティアの登録はかなりある。高尾山も有名になり、ホテルにもたくさん外国からきた宿泊者が泊まっている。万が一のとき、地域にこのような医療通訳のネットワークがあれば、病院に行かなくても電話等の離れた場所での医療通訳があれば良いと思う。しかし、これは市や国際協会にかなりの負担をかけることになると思う。かなりレベルアップしなければならない。協会が行っている医療通訳の研修に参加したが、現在のレベルはバラバラなので今の状態では難しいと思う。医療通訳ボランティアがトレーニングをして、八王子国際協会と東京都が連携することが出来たら良いのではないかと思っている。

評議員

- ・今の提案は、施策のどの部分に入れたら良いと思うか。
- ・施策番号17番に医療通訳者派遣システムの構築がある、また、3番では通訳・翻訳ボランティア等の育成と活用の充実がある。こういった提案がよいか。医療通訳ボランティアへの研修が大切であるということか。

評議員

- ・育成と活用、ネットワークづくりが必要だと思う。

ひょうぎいん
評議員

- ・市のイメージとしては、このような提案に対して、施策の中に言葉を追加していくということか。どのように考えればいいのか。

じむきょく
事務局

- ・今は、17番で医療通訳者派遣システムの構築の中に含まれてしまっていると思うので、推進する施策の中に、新しく医療通訳者のネットワーク作りという項目を作り、育成を重視するといった形で反映が出来るのではないかと考える。

ひょうぎいん
評議員

- ・とにかくこの場合は、意見を出して、後で市がどのように反映するか考えるということなので、各評議員は、各項目または項目に無い意見を出してもらいたい。

ひょうぎいん
評議員

- ・私の意見は、医療・福祉、就労、外国人留学生、国際理解・交流について。
医療・福祉では、民間ではソフトの開発が進んでおり、翻訳アプリもたくさん出ている。スマートフォンのアプリで医療関係の用語を各言語に翻訳できるものもある。それほどコストをかけずにやれるのではないかと。市と民間が協力してやれば、施策番号16、17、18の施策は出来る。

法律で海外からの看護師受け入れもやっている。これから、そのための細かいシステムが作られると思う。八王子市は老人ホームや病院が東京の中でも多いと思うが、外国人の看護師やケアワーカー等が安心して仕事ができるようにするための施策を新しい項目として入れた方が良い。八王子市ではなく東京都の老人ホーム等で、外国人看護師等のニーズのデータをとる必要がある。海外から来る労働者の対策が必要であると考えます。

- ・就労は、先ほど述べた医療・福祉と関係するが、海外から看護師等がたくさん入ってくる。2年後くらいには、日本語学校で勉強してから、勉強しながら病院や老人ホームなどで仕事をするようになるだろう。これらについての連携は、政府と政府、日本語学校と政府など色々な形があると思う。就労の関係では、日本に住んでいる外国人の就労だけではなく、海外からやってくる就労者、看護師やオリンピックに関連した建設関係の就労者のなどがこれから増えると思う。

- ・施策番号31番の外国人留学生の生活支援について。留学生、特にベトナム、インドネシアなど途上国からの留学生は、お金をあまり持っていないので、勉強しながらアルバイトをする必要がある。生活支援の細かい部分としてアルバイトの情報提供がある。市でなくても市と企業等が提携して出来ないか。大学生は週に40時間（通常は28時間、夏休みなどは40時間）まで働けるので、その範囲でアルバイトが出来れば良い。そうすれば、留学生も安心して勉強ができるし、収入も確保されるし、授業料も納めることができる。

- ・国際理解・国際協力については、JICAが八王子市でもイベントを開いて子どもたちに対して

国際理解・国際協力について伝えている。住民に対しても海外での活動を伝えることが出来る。海外に出ている企業もあるし、JICAや民間と連携し、イベントを通じて国際理解・国際協力のことを知ってもらえる。施策番号35番については、もっとイベントを開くことができれば、国際理解の促進につながると思う。

- ・プランでは挙げられていないが、八王子市と他県の市と多文化共生の交流をして事業の勉強が出来ると良い。例えば佐賀県では、母親が集まって意見交換などを行っている。他県の活動を知ることが出来る。

評議員

- ・児野評議員は、Facebookを使って他県や東京都などたくさんの情報を提供している。国際協会のFacebookを見ればかなりの情報が手に入る。

評議員

- ・先ほど意見のあった、外国人のケアワーカー、看護師などの八王子市での受け入れ状況は掴んでいるか。

評議員

- ・受け入れていると聞いているが、人数までは把握していない。

評議員

- ・国は、かなり進めていくと言っている。試験に通るのが難しい。そこが一番大きくて、試験は日本語でかなり難しい。日本語が問題になっている点は知っておく必要がある。

評議員

- ・以前はかなり難しかったが、今は日本、特に東京都のニーズが大きいので柔軟になっている。日本語能力試験1級を取る前でも、日本語学校に通いながら病院や老人ホームでアルバイトをする形もあり、実を結んでいる。そういった事業をサポート出来れば良い。

評議員

- ・教育と福祉に入ると思うが、学校教育については色々書いてあるが、幼稚園・保育園についてはほとんど何も書いていない。施策番号19に外国人市民にも分かりやすい子育てや福祉に関する各種相談窓口の充実という1行しか書いていない。働くためには保育園に預けられなければならない、日本人でも騒いでいる状態なので、そういった項目が一つ入らないかと思う。横浜市だったと思うが、妊娠、出産、幼稚園・保育園に行き、小学校、中学校、高校までの流れを図式として出している。項目とは関係ないが、私たちが作ると（文章中心の）こういったものになってしまうが、本当に誰が見てもわかりやすい「日本の子育てはこうなっている」というものを出来ないかと思っている。

評議員

- ・全体的に見て抽象的な言葉が多い。もっと具体的な言葉を使い、もうひとつ展開していくことが必要ではないか。具体的な内容を羅列した方が良いのではないかと思う。

事務局

- ・具体的なことという、プランの中の事業には具体的記載をしている。10年を見据えたプランなので、大枠の言葉を並べた上で、具体はそれぞれの事業単位の中に落とし込み、毎年ローリングをしている。ただ、重点的にやるべきことをはっきり出していただき、しっかりと伺っていきたいと思っている。

評議員

- ・施策番号22番の町会・自治会への加入促進が書いてあるが、外国人市民に対して町会・自治会の必要性のPRをまずやって、それから加入促進だと思う。加入促進をするのが少し早いのではないかと感じる。

評議員

- ・いきなり加入となると、かなり説明をしなければならぬし、難しいところだと思う。まずは地区での行事などにできるだけ参加してもらい、そこから加入の話になると思う。

評議員

- ・ふりがなをふるなどして地道に積み重ねてやっていくという方法もあると思う。具体的には、その地域ごとの事情もあるだろう。
- ・10年を見据えてということで、プランには多文化共生意識の啓発とあるが、私の考えでは、自分たちが考え方を考えていくということもここに入るのではないかと感じる。ここが将来だんだん重くなっていくと感じた。特に、多文化共生意識の啓発については、私たちが最近になって多文化共生という言葉を使うようになった。一般の人は、まだ、多文化共生という言葉知らないしと思うし、八王子に住む日本人は、八王子に住む外国人がどのような制約の中で暮らし続けているのかということを知らないと思う。例えば、私の父は、ビザとパスポートの区別がつかない。在留カードという言葉を知っているかどうかともわからない。また、在留カードの制限、就労の制限というものを一般の人がどれくらい知っているのか。私は、大学生の就労は週28時間までだと思っていた。そういうことが、国に家族を残して勉強している人たちには目の前の現実としてあって、それを雇う側がどれくらい外国籍の人が働くこと、留学生の在留資格であっても働かなければならないといった背景を理解しているのか。「日本人の就労者が集まらないから、外国人は安くていいや」は、今はないと思うので、次を考えなければならない。今まで私たちが考えていなかったことを普通の人たちが気づいていくということは、多文化共生意識の啓発という目標に対して重い課題だ。

評議員

- ・施策のテーマのなかで、医療など色々出たが、時代の流れのなかで医療関係は、ソフト開発が進んでいる。分からない言葉を色々な言語で簡単に翻訳でき、困らない時代になってきている。最初にこれらの施策を作った時は、アンケートなどを元に作ったと思うが、かなり状況が変わってきて、本当に困っているのかなと思う。施策番号2番などは、今やアプリに音声で

はな ぜんぶじぶん くに ことば こた
話しかければ全部自分の国の言葉で応えてくれる。

- 外国人は増えているし、八王子は大学も留学生も多い。就労のことを考えると、それなりの仕事をする場所がなく、非常に困っている。中には、悪い学校もあって、せっかく母国で一流大学を出て日本に来て、日本語学校に行つて、言葉に慣れたら専門学校に行きなさいという、悪いやり方をしている学校もある。こういったことにどう対処するのかということをおもっている。これは、確実に今ある現実だ。
- 就労のことは非常に難しい問題だ。日本国内でも良い大学を出れば、就職先は沢山ある。外国人でもそれは同じこと。一流の大学を出れば、どこの企業でも来てほしいと言って、皆さんの内定を出してくれる。だけど、そこそこの学校を出ていても就職がない現実がある。それに対して、特に行政と連携して、八王子市にある学校の卒業生は、行政が市内の企業に声をかけて、卒業したら採用されるような方法を考える必要がある。そうでないと、ただ八王子市の大学を卒業しただけになってしまう。就職に困っている留学生はたくさんいる。市としてどう考えているのか、大きな課題である。
- オリンピック・パラリンピックでは全国からボランティアをやりたい人がたくさん出てくると思うが、要請が来るのか、都や市の募集に対して自分から応募するのか分からない。外国人のために役に立ちたいと時間をつくって、ボランティアをしたいという人に対して、市としてはどうやって協力するのか。一生懸命勉強して、自分のやりたいボランティアが出来なければ悲しい思いをする。ボランティアをやりたい人は、八王子市と連携してそこから参加するのか。オリンピック・パラリンピックは東京都の事業で、八王子市としてどう関係するのか、ぴんこない。

ひょうぎいん 評議員

- 推進する施策はずいぶん考えられていると思う。企業の立場から言えば、就労の部分では、外国人をうまく雇用し、日本人と同様の待遇でエンジニアとして育てていこうと採用している。中国人と韓国人の2人が我々の会社にインターンシップとして来た事もあるし、国内の大学から我々のところで勉強したいということで、優秀なエンジニアを雇った事もあるが2~3年で辞めてしまった。その原因は、配偶者が同国人で、子どもが出来て、幼稚園でいじめられたり、配偶者が日本語をうまく話せないなど、企業がフォローしきれない部分で辞めてしまった。施策番号10番の「外国人市民が集い、情報交換できる場の支援」や7番の「外国人市民によるネットワークの構築支援」といったものがあることを我々が知っていれば、外国人の従業員にも話をして、色々情報を得ることが出来る。施策の柱Iに「コミュニケーション支援の充実」とあるが、ここから力を入れれば、他の施策については誰もが情報を得られるのではないかと。ネットワークと集いに相当力を入れてやっていく必要があるのではないかと。思う。我々は、こういった集いやネットワークがあることをほとんど知らなかった。企業にもそういうものがあることを伝えるのは大切だ。例えば、商工会議所などを通じて、外国人を

やと 雇っている企業をサポートできることを伝えてほしい。

評議員

・事務局から、このような外国人の集いなどをいくつか紹介してほしい。

事務局

・このプランが出来てから作ったので、平成25年度からになるが、Facebook上で最初は中国、韓国のコミュニティを八王子国際協会に委託して作った。今は、6グループのネットワークが出来ている。その他にも同国人のグループはあると思うが全ては把握が出来ていないのが現状。よろしければ、児野評議員からFacebookグループの話をしてもらいたい。

評議員

・八王子国際協会Facebookページがあり、そこではメインは日本語とひらがなで発信している。それらのうち、6言語に翻訳できるものは翻訳して6つの言語グループに情報を流している。言語は、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ベトナム語、それからフィリピンのグループがある。フィリピンは、言語がたくさんあるので、メインとしては英語とタガログ語だが、それでもわからないという人はいるかもしれない。そこで情報を流しているが、お互いに情報交換をし続けるほどの力はまだないと感じている。

その他、外国人市民が同じ言語、同じ国の人たちでグループを作っているかということ、それほど大きなグループは出来ていない。いくつかはあるが、例えば日系ペルー人が何家族かでグループを組んでいたり、フィリピンの人たちは仲良しグループのような感じでグループを組んでいたりというものはある。大きなものでは、教会、モスクやタイの寺院など宗教施設での交流があると聞いている。自分たちのグループは、誰とでも簡単に組めるものではない。コミュニティとなったときに、気の合う人たち、考え方の近い人たちがグループになる。八王子国際協会Facebookグループでは、情報を発信するためのグループになっているところがあり、まだ十分に機能しているとは言えない。ただ、八王子国際協会から出す情報はそのグループでほとんどとることが出来ると思う。

事務局

・加えて、交流会もやってもらっている。昨年末だと巻き寿司を作るイベントを行った。

評議員

・中国、マレーシア、フィリピンの方々が参加した。このようにどこかで顔を合わせて、各国の人たちに友達になってもらい、その後は個人個人でFacebookや電話番号、メールの交換などで繋がってもらっている。

・一度来てもらって、10人友達ができれば、そこからまた10人と膨らんでいる状態になっている。

評議員

・求めればそのような集いがけっこうあるということか。

ひょうぎいん
評議員

・マダワラ評議員がやっている多文化子育て広場の集まりでは、自分の国の友達を見つけられる。色々な国の人たちが子どもを連れてやってきていて、かなり会話も弾んでいる。

ひょうぎいん
評議員

・こういったものが始まったのは最近だ。親子で一緒に何かができるというのは、これまでは保育システムをきちんと作らないとやれなかった。日本語教室でも、保育システムがきちんとしているものは一つか二つしかない。先ほど話しに出たような年齢の方たち（子育て世代）が集まって情報交換できる場は比較的少ない。積極的な人がいて、立ち上げてくれて良かったと思う。八王子国際協会もこの年代が少ないので、なかなかここまで取り組めない。自発的な人が出てきて、国際協会では何人か紹介して、参加者が膨らんできている。

ひょうぎいん
評議員

・子育てや乳幼児という言葉はプランに入った方が良い。

じむきょく
事務局

・確かにそういった視点は欠けていた。小学生以降のことは書いているが、乳幼児の情報というのはこれまでなかった。

ひょうぎいん
評議員

・それから、その前の、妊娠期の問題などもあるかもしれない。

じむきょく
事務局

・岡林評議員の視点として面白いと思ったのは、今まで、情報の流し方として、会社の方がそういったことに困っているという視点はなかった。情報の流し方として今までにない視点だと思った。

ひょうぎいん
評議員

・SNSなど情報の活用といった視点があった方がいいと思う。プランを作った時には、SNSはすでにあったが、そういうところまで意識が行かなかった。

ひょうぎいん
評議員

・このところ急激に利用が広がっている。

ひょうぎいん
評議員

・教育について児野評議員が言っていた、保育園、保育所について、八王子市では、施設が足りていなくて困っている。外国人だけでなく日本人もとても困っている。女性の社会進出ということで、仕事をしたいが保育園、保育所に入れるのがとても難しい。東京都等と連携して施設の充実が必要である。

じむきょく
事務局

・本市は子育てしやすいまちナンバーワンを目指して取り組んでおり、待機児童数の解消には特に力を入れている。ただ、新規の保育園の開設は、近隣の理解、保育士の確保という点で

ネックになっている。これはどこの自治体でも共通の課題となっている。

評議員

・保育士が自分の働いている保育園に自分の子どもを入れることを出来るようにすれば、保育士不足の解消と定員を増やすことが出来る。広島市では、保育士が働いている保育園に自分の子どもを入れている。こういった点をもう少し工夫してほしい。

評議員

・保育の続きとして、学童保育はどういう状況か。足りていないのではないか。

評議員

・学童保育は、保育園よりは増やしやすいと思う。シングルマザーで働きたいけど、子どもを預けることができないので働けないといていた人がいたが、1ヶ月後には、学童保育所が増えていて働いていた。場所さえあればすぐに増やせる。待機児童の問題ほど大変ではないと思う。

・昨年、新生児訪問に保健師と一緒にいった。日本人はわかると思うが、保険証は親のものと子どものものと二つある。そのことを知っているか聞いてみたら、知らなかった。子どもが産まれて保険証の申請に行ってもらってきた書類をすべて出してもらうように言ったら、封筒のチラシのいちばん奥に入っていて気がついていなかった。できれば保険証を渡すときに、一行でかまわないから多言語で「大切なものなので親の保険証と一緒に保管してください。」と書いてほしい。私は当たり前のことだと思っていたが、まったく知られていなくて驚いた。

評議員

・多文化共生意識の啓発に関する講演会等の参加率が非常に悪い。一番大切なのは、外国人からみると日本人に多文化共生を理解してもらうことだ。日本人でも海外に出た人であれば、外国人との付き合い方などは分かっていると思うが、全く出ていない日本人は、外国人を変な風に見る。近づかない方がいいと言われてたりする。まずは日本人に多文化共生とは何かを理解してもらわなければならない。特に中心として、学校教育の場で先生たちにまずは理解してもらい、先生から子どもたちに教育してもらわなければならない。そうしなければ、なかなか結果は出ないと思う。どのように知ってもらうか、周知するかは分からないが、もっと知ってもらう機会を増やす必要がある。

事務局

・日本人に対する多文化共生意識の啓発は非常に重要であると思っている。このプランを作るときにもそのことは大切だという議論があったことを聞いている。子どものうちからそういう教育をするため、小学校3・4年生向け、5・6年生向け、中学生向けの国際理解教育プログラムを八王子国際協会に委託して作成し、小中学校で国際理解教育を進めるように、小中学校の校長会などでPR活動を行っている。大人向けとしては、参加者は少ないが講演会などを地道に行っていかなければならないと思っている。これは意識の問題なので、1回2回講演を

聴いただけで簡単に変わるものでないと感じている。だからといって、諦めるわけではなく、地道に色々なテーマを組み合わせて、繰り返しやって行かなければならないと感じている。日本人に対する多文化共生意識の啓発は非常に重要な点であると認識している。

評議員

- ・私が外国人市民会議の会長をしていた頃からずっと言っていたのは、マジョリティの意識を変えなければならないということは何度も言った。共生とは外国人を一方向的に支援することだけではなく、マジョリティの意識の改革であると言っている。現場にもそういう思いがあり、取り組んでいるが、十分でないことは分かっている。

事務局

- ・意識という面では、八王子には障害者差別禁止条例があり、全国でも市町村レベルでは初の制定である。差別禁止は当たり前のことだが、改めて条例を作るということは、意識だけでは通用しない。形としてそういうものを作ることによって施策を進めていくということのあらわれである。外国人の入居を断るということはまさに差別以外のなにものでもない。マジョリティの意識を変えるということは、ある種の強制力がないと変わらないとも思う。教育も重要だとも思うが、制度化して形から入ることも一つの方法だと思う。

評議員

- ・制度化されればそれが一番良い。

評議員

- ・立川市では多文化共生都市宣言をしているが、八王子市ではどうか。形からということになると、こういった宣言はかなり大きい。

事務局

- ・立川市は市民提案から始まっている。市民提案から請願を出して、都市宣言に至ったと聞いている。市が独自にやったものではない。

評議員

- ・現在、世界的に見て、反グローバリズムの流れで、移民の問題が大きくなっている。これが日本に波及してほしくないと思っている。

事務局

- ・少子高齢化で人口減少が避けられない中で、外国人の若年層、特に八王子では留学生が多いが、決して安価な労働者という意味でなく、若年層がまちづくりを担うことを考えていかざるを得ないと思う。皆さんはどう思っているか。

評議員

- ・ドイツでは子どもの3分の1は移民系だと聞いている。ドイツでは日本と違って、法律できちんとドイツ語を教えることになっている。言葉を教えて受け入れるという風にシステムチックにしている。ドイツでは、昔のようにドイツ語の有名な歌手は出ないだろうと言われている。理由は、

ドイツ語を母国語とする若い人が減り、子どもの3分の1はドイツ語を母国語としない移民を背景とするからだ。ドイツはそうしないと生き残れないため、国策として移民を受け入れることを選択した。日本と重なるところが多いので、私たちの意識は遅れていると思う。ドイツでそういうことが起こっていることをまず知る必要がある。

- 見える形から入って行くことはとても良いと思う。行政が主体になり、見えるところで「これは差別です」、「これはヘイトスピーチです」といったポスターを貼ればいい。入国管理局では、「国民健康保険と国民年金に入ることは義務です」というポスターが貼ってあった。市役所でもすぐにできそうだ。見える部分で、市の権限ですぐに実行出来れば良いなと思っている。

評議員

- 若い人ということでは、大学には優秀な外国人留学生がたくさんいる。しかし、先ほど話に出たように、そういう人がなかなか就職できないという状況がある。そういった人たちが日本で、生活して、食べていけるようなそういうシステムが出来ると良い。優秀な留学生が地域に残って、まちづくりの担い手になれば良いと常に思っている。

評議員

- 少数派と思われていた外国を背景とする若い人たちが増えている。そういう人が簡単に起業できるような特区のようなものがあり、そこに外国人の人が集まってきて居場所を見いだせるような街ができるといいと思っている。私がよく知っている商店街の人たちは「外国人は邪魔だ。歩道を広がって歩いている」とクレームする。また、学校の近くのあるゴミ箱は、ガムテープで封をされていた。まるで、学生たちが散らかしているかのようだ。しかし、日本に来たばかりでは、ゴミの仕分けは分からない。NHKの中国語講座の先生ですら、日本のゴミの仕分けは難しいと言っていた。そういう、自分たちとの違いを私たちが知ることから始めないと、ドイツのような現実が迫っているのに、多数派の考えが追いつかない。それを放っておくと将来の憎しみの種になるので、今のうちから強い意志を持ってそういうものが産まれないようにしていくことが大事なのではないかと、最近、感じている。

評議員

- 6~7年間、外国籍の子どもたちの学校生活の支援をしている。母国で離婚して、日本人と結婚して子どもを連れてくる人がけっこう多い。多くの場合、子どもは最初、日本のことを拒否する。私はいつも、日本の良いところが必ず分かってくると言っている。子どもは、日本に来て、友達がいなし、言葉も話せないし、先生ともコミュニケーションが出来ない。これはかなり辛いことだ。この子たちがきちんと成長していけば将来は税金を払う人になる。税金もかかるし、支援も必要だし、先生の手もかかるが、面倒だと思わないでほしい。多い家では3人くらいの子が産まれたりする。こういう若い人たちが入ってくると、最初は大変だけど手厚くしてあげてほしい。将来必ず良いことがある。高校進学ガイダンスで子どもを何とか高校までは行かせたいと言われたが、壁は高い。行政がもう少し考えないと日本の未来が心配だ。

ひょうぎいん
評議員

- ・外国人の子どもたちは中途半端なところにいる。日本語は出来ないが、母国語が出来ても役に立たない。どうしたらいいのかと考えている。

ひょうぎいん
評議員

- ・義務教育における一つの答えがテレビで放映されていた。大久保の小学校では、先生も言葉が出来ない、通訳は週に1回くらいしか来ない、結局、子ども一人一人をずっとフォローしていく。最後には、その子は自分の国の料理をクラスの友達に披露して、ようやくいじめが止まった。要は個人個人でケアしていかないと子どもは普通の子どもにならないということを番組で紹介していた。

ひょうぎいん
評議員

- ・私の知り合いは名古屋の教育委員会で各学校の外国人の子どもを集めて、日本語の指導などを行っている。八王子市では、そういった仕組みはあるか。

じむきょく
事務局

- ・八王子市では、いくつかパターンがある。小中学校1校ずつ日本語学級がある。そこは、週に数時間を日本語教育に充てている。その学校に通う子どもだけでなく、他の学校の日本語がうまく出来ない子どもも来て勉強している。次は、谷川評議員がやっている初期指導員が各校の困っている子どものところに行き、言葉の面で支援をする。もうひとつは、日本語巡回指導教育委員会の人（日本語指導担当研究主事）が日本語に少し慣れていない子どもが主に対象となるが、学校を回り指導するものがある。

ひょうぎいん
評議員

- ・近所のフィリピン人の子どもは、日本語や漢字がうまくできなくて、ただ困っているだけで子どもはそういう情報も分からない。愛知県では、学童保育のような施設があり時間が来ると子どもが集まり、子どもに日本語を教えている。

ひょうぎいん
評議員

- ・学校にボランティアが行くというよりも、教室に集めてやるような形が良い。どこかで別に時間を取って、日本語を勉強する必要がある。

ひょうぎいん
評議員

- ・愛知県では、午前中は普通の学校に行って、午後はそういった場所で教員をリタイアした人たちが日本語を教えている。

じむきょく
事務局

- ・日本語学級は、小学校1校、中学校1校となっている。八王子は広いので、十分とは言えないかもしれませんが、取り組んではいる。

ひょうぎいん
評議員

- ・時間も迫ってきたが、何かあるか。施策に関係なくてもかまわない。

- ・八王子では、高尾山含め外国人観光客への対応をこれからのオリンピック・パラリンピックに向けてやっていこうということなので、施策のテーマに観光を加えてもいいのではないかと考えた。施策4に入れば見える形になるのではないかとと思う。

評議員

- ・観光と食べ物、八王子ラーメンは有名と言われているけど、八王子ラーメンのお店が見つからない。

評議員

- ・そういう意味では、それを施策の下に入ればいいのではないか。

評議員

- ・施策のテーマのところに柱の一つとして入れてもいいと思って発言した。

事務局

- ・気がついたことはこの場だけではなく、メールなどで寄せていただければと思う。

5 事務連絡

○次回評議会日程の調整

- ・5月19日（金）18:45から開催

6 閉会